



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 いなげや

コード番号 8182 URL <http://www.inageva.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 成瀬 直人

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 財務担当

(氏名) 藤本 勇

TEL 042-537-5111

四半期報告書提出予定日 平成25年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	167,449	△0.0	1,967	△19.5	2,235	△15.1	819	34.8
24年3月期第3四半期	167,525	0.4	2,443	△2.0	2,633	△2.6	608	756.7

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 961百万円 (68.6%) 24年3月期第3四半期 570百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	17.65	—
24年3月期第3四半期	13.10	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	94,628	44,579	46.8
24年3月期	91,571	44,319	48.1

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 44,304百万円 24年3月期 44,091百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
25年3月期	—	7.50	—		
25年3月期(予想)				7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	221,700	1.2	4,000	1.7	4,300	3.9	1,900	62.7	40.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	52,381,447 株	24年3月期	52,381,447 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	5,942,804 株	24年3月期	5,942,534 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	46,438,776 株	24年3月期3Q	46,439,315 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 平成24年5月8日に公表いたしました平成25年3月期通期連結業績予想より変更はございません。
2. 本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(6) セグメント情報等 .....	9
4. 補足情報 .....	10
設備投資の状況 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、震災復興関連の需要による下支えがあるものの、海外景気の減速や為替の変動を背景とした影響により先行き不透明な状況が続いております。小売業界におきましても、雇用不安や所得が伸び悩むなか、個人消費は依然として弱含んでおり、業種業態を超えた競争も激しく、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様から支持される店づくりを目指し、「店舗運営体制のさらなる強化」と「より質の高いチェーンストア経営」に取り組むとともに、食品の安全に万全を期しながら、安定した商品の調達と供給に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、当第3四半期に連結子会社になった㈱三浦屋の業績貢献もありましたが、営業収益が1,674億49百万円（前年同四半期比0.0%減）、売上高が1,614億32百万円（同0.0%減）になり、売上総利益は前年に比べほぼ横ばいになったものの、販売費及び一般管理費が476億27百万円（同0.8%増）と増加した結果、営業利益は19億67百万円（同19.5%減）、経常利益は22億35百万円（同15.1%減）となりました。最終利益は減損損失5億49百万円などを計上したことにより8億19百万円の四半期純利益（同34.8%増）となりました。

当社グループにおけるセグメント別の状況は次のとおりです。

#### [スーパーマーケット事業]

新中期2ヶ年経営計画のもと、小売事業における出店エリア内の占拠率を高め、ドミナント化を推進し、他社に対する優位性を高めるとともに安定した収益性の実現に取り組んでおります。

営業政策としては、お客様視点での売場づくりを目指し、お客様の暮らしぶりにあった商品の販売計画と売場展開やメニュー提案をすすめ、さらに「価格だけに頼らない、楽しい、美味しそうな、鮮度感あふれる商品づくり・売場づくり」の具現化を目指してまいりました。また、店舗を大中小のタイプに分類、基準を明確化し、小型店は「効率化と割安感を提供」、中型・大型店は「豊富な品揃えと惣菜を強化」するなど、それぞれのタイプに適した営業政策をきめ細かく推進して、お客様に支持される店づくりとオペレーションの効率化に努めました。

さらに、お客様により近づいたサービスを提供するため、宅配サービス『届くいなげや』をスタートさせ、また、当社独自のポイントシステムを持つ「ing・fan（アイエヌジー・ファン）カード」を活用した販売促進も継続的に強化するなど、引き続き固定客拡大にも努めてまいりました。そのほか、コストをゼロベースから見直すなど経費の削減をすすめ、さらに、6月に開設した、いなげやグループ研修センター（東京都小金井市）を活用し、グループ全体の人財育成に注力してまいりました。

また、10月に㈱三浦屋の全株式を譲り受けて、完全子会社としております。同社は、当社が進めるドミナント戦略上の重要なエリアである東京多摩地区を出店地域として、駅前立地と高級志向の品揃えを特色としており、相互協力によりお互いの強みを最大限活かし、いなげやグループとしての事業価値の最大化を図ることでお客様への貢献をより一層高めていけるものと考えております。

設備投資としましては、10月にina（い～な）21西武入間ペペ店（埼玉県入間市）ならびにブルーミングブルーミー・セレオ八王子店（東京都八王子市）を新設、当第3四半期連結会計期間末での店舗数は、連結子会社になった㈱三浦屋の9店舗を加え140店舗になりました。また、花小金井駅前店（東京都小平市）のほか16店舗を「ニューSSM」タイプへ改装するなど、既存店の活性化をすすめました。

売上高につきましては、依然としてお客様の節約志向は強く、既存店売上高が前年同四半期比4.5%減（㈱三浦屋を含む）と厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は、1,334億80百万円（前年同四半期比0.4%減）、セグメント利益は12億15百万円（同22.9%減）となりました。

#### [ドラッグストア事業]

主力商品の販売強化に継続的に取り組み、収益力の改善に努めるとともに、既存店の活性化をすすめてまいりました。また、店舗タイプ別オペレーションの標準化に取り組むなどローコスト運営にも取り組んでまいりました。

設備投資としましては、10月にスクラップアンドビルドで立川南口店（東京都立川市）および同月に荒川西尾久店（東京都荒川区）を新設、一方、都市再開発に伴い1店舗を閉店した結果、当第3四半期連結会計期間末での店舗数は108店舗になりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は、既存店売上高が前年同四半期比0.6%減で推移しましたが、新店が売上高に寄与した結果、267億59百万円（前年同四半期比2.7%増）となり、セグメント利益は5億11百万円（同2.9%減）となりました。

[その他]

デイリー食品を製造している㈱サンフードジャパンは、原材料の見直し、製造工程の見直しを進めて効率経営に取り組んでまいりました。ショッピングセンターの運営・管理、警備・清掃などを行っている㈱サビアコーポレーションは、テナントの入替による活性化や業務の効率化を進めてまいりました。店舗および附属設備の建設・保守管理を行っている㈱トスにおきましては、当社グループ各社に対してローコスト店舗づくりなど積極的な提案を行ってまいりました。障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社㈱いなげやウィングでは労務の提供により店舗業務の支援に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は11億93百万円（前年同四半期比9.2%減）、セグメント利益は3億45百万円（同21.7%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

前連結会計年度末日および当第3四半期連結会計期間末日がそれぞれ金融機関休業日にあたり、末日期限決済分を翌営業日に決済しておりますため、買掛金などの未払債務の末日期限未決済分の負債と対応する手元流動性資金の資産が共に両建てで膨らんでおり、その増加額は前連結会計年度末が98億85百万円、当第3四半期連結会計期間末が108億11百万円でした。

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ30億56百万円増加し、946億28百万円となりました。

流動資産は、5億60百万円増加し、371億96百万円になりました。これは主に、現金及び預金が108億47百万円、売掛金が9億19百万円、商品及び製品が8億40百万円増加した一方で、余資の運用である有価証券が109億79百万円、流動資産のその他（未収入金など）が11億27百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、24億95百万円増加し、574億31百万円になりました。これは主に、有形固定資産が4億81百万円、投資有価証券が1億44百万円に加え、株式会社三浦屋の連結子会社化に伴いのれんが16億83百万円増加したことによるものです。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ27億96百万円増加し、500億49百万円になりました。

流動負債は、38億36百万円増加し、392億27百万円になりました。これは主に、買掛金が42億68百万円、流動負債のその他（未払費用など）が8億60百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が13億58百万円、1年内返済予定の長期借入金が3億87百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債は、10億40百万円減少し、108億21百万円になりました。これは主に、長期借入金が12億84百万円、固定負債のその他（長期預り保証金など）が2億58百万円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ2億59百万円増加し、445億79百万円になりました。これは主に、四半期純利益で8億19百万円増加し、配当金の支払で6億96百万円減少したことにより利益剰余金が1億23百万円増加したためです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.3ポイント下がり、46.8%になりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成24年5月8日公表時から変更しておりません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	※ 6,291	※ 17,139
売掛金	1,925	2,845
有価証券	※ 14,979	※ 3,999
商品及び製品	7,344	8,184
仕掛品	2	5
原材料及び貯蔵品	214	283
その他	5,877	4,750
貸倒引当金	△0	△10
流動資産合計	36,636	37,196
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,406	13,276
土地	17,735	18,065
その他(純額)	3,276	3,557
有形固定資産合計	34,417	34,899
無形固定資産		
のれん	—	1,683
その他	2,684	2,854
無形固定資産合計	2,684	4,537
投資その他の資産		
投資有価証券	3,425	3,570
差入保証金	10,929	10,969
その他	3,504	3,479
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	17,833	17,993
固定資産合計	54,935	57,431
資産合計	91,571	94,628
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※ 22,304	※ 26,572
短期借入金	—	585
1年内返済予定の長期借入金	2,225	1,838
未払法人税等	1,446	88
ポイント引当金	1,077	946
その他	※ 8,336	※ 9,196
流動負債合計	35,390	39,227
固定負債		
長期借入金	4,438	3,153
退職給付引当金	1,317	1,684
資産除去債務	2,864	3,000
その他	3,241	2,982
固定負債合計	11,861	10,821
負債合計	47,252	50,049

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	26,877	27,000
自己株式	△6,117	△6,118
株主資本合計	43,338	43,461
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	752	843
その他の包括利益累計額合計	752	843
少数株主持分	228	274
純資産合計	44,319	44,579
負債純資産合計	91,571	94,628

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業収益	167,525	167,449
売上高	161,437	161,432
売上原価	117,853	117,854
売上総利益	43,584	43,578
営業収入	6,088	6,016
営業総利益	49,672	49,595
販売費及び一般管理費	47,228	47,627
営業利益	2,443	1,967
営業外収益		
受取利息	66	59
受取配当金	77	71
助成金収入	16	80
その他	120	136
営業外収益合計	280	347
営業外費用		
支払利息	83	73
その他	7	6
営業外費用合計	90	79
経常利益	2,633	2,235
特別利益		
投資有価証券売却益	279	—
特別利益合計	279	—
特別損失		
固定資産処分損	36	48
減損損失	1,025	549
その他	17	28
特別損失合計	1,078	626
税金等調整前四半期純利益	1,834	1,609
法人税、住民税及び事業税	946	454
法人税等調整額	246	283
法人税等合計	1,193	738
少数株主損益調整前四半期純利益	641	870
少数株主利益	33	51
四半期純利益	608	819



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	641	870
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	90
その他の包括利益合計	△71	90
四半期包括利益	570	961
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	536	910
少数株主に係る四半期包括利益	33	51

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はございません。

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 前連結会計年度末日および当第3四半期連結会計期間末日がそれぞれ金融機関休業日にあたり、未日期限決済分は翌営業日に決済処理しております。このため、それぞれの期末日現在では、次の未決済負債残高が増加しており、また、それに見合う手元流動性資金（「現金及び預金」ならびに「有価証券」）も増加しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
買掛金	8,616百万円	9,211百万円
その他（流動負債）	1,268	1,599
計	9,885	10,811

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はございません。

(6) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケッ ト事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	134,066	26,056	160,123	1,313	161,437	—	161,437
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	0	1	6,073	6,075	△6,075	—
計	134,068	26,057	160,125	7,387	167,512	△6,075	161,437
セグメント利益	1,577	526	2,104	441	2,546	△102	2,443

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産管理業、食品製造業、建設業、店舗支援業務の請負を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケッ ト事業	ドラッグ ストア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	133,480	26,759	160,239	1,193	161,432	—	161,432
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	0	5,364	5,365	△5,365	—
計	133,481	26,759	160,240	6,557	166,798	△5,365	161,432
セグメント利益	1,215	511	1,727	345	2,073	△106	1,967

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産管理業、食品製造業、建設業、店舗支援業務の請負を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を図っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

4. 補足情報

設備投資の状況

①重要な設備計画の完了

前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設のほか、当第3四半期連結累計期間において完了したものは次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備名	設備の内容	投資金額 (百万円)	売場面積 (㎡)	着工及び 完了年月		年間売上 予定額 (百万円)
							着工	完了	
㈱いなげや ㈱クックサン	東京都 東村山市	スーパー マーケット 事業	(注)2 エスビー 久 米川通り店	新設店舗	41	377	平成24年 8月	平成24年 9月	400
	埼玉県 入間市		ina21西武入間 ペペ店	新設店舗	109	1,067	平成24年 8月	平成24年 10月	1,000
	東京都 八王子市		ブルーミング ブ ルーミー セレ オ八王子店	新設店舗	337	1,661	平成24年 8月	平成24年 10月	2,500
㈱ウェルパーク	埼玉県 朝霞市	ドラッグ ストア事業	朝霞本町店	新設店舗	77	441	平成24年 4月	平成24年 6月	330
	東京都 墨田区		墨田立花店	新設店舗	58	470	平成24年 5月	平成24年 6月	330
	東京都 調布市		調布深大寺店	新設店舗	76	475	平成24年 6月	平成24年 8月	310
	東京都 西東京市		西東京新町店	新設店舗	61	449	平成24年 6月	平成24年 9月	310
	東京都 荒川区		荒川西尾久店	新設店舗	74	410	平成24年 7月	平成24年 10月	320

- (注) 1. 年間売上予定額は、開店時から1年間の売上見込額であり、消費税等は含まれておりません。  
2. 当第3四半期連結累計期間において計画、完了したものであります。

②重要な設備の新設等

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設は、次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備名	設備の内容	投資予定金額		売場面積 (㎡)	着工及び 完了予定年月		年間売上 予定額 (百万円)
					総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着工	完了予定	
㈱いなげや ㈱クックサン	東京都 練馬区	スーパー マーケット 事業	(仮)練馬 下石神井店	新設店舗	763	22	1,908	平成25年 2月	平成25年 8月	2,100
	東京都 西東京市		(仮)西東京 富士町店	新設店舗	341	68	906	平成25年 3月	平成25年 8月	1,300
	東京都 世田谷区		(仮)世田谷 桜新町店	新設店舗	700	50	943	平成25年 4月	平成25年 9月	1,500
㈱ウェルパーク	川崎市 幸区	ドラッグ ストア事業	川崎古川町店	新設店舗	73	10	490	平成24年 11月	平成25年 3月	300

- (注) 1. 年間売上予定額には、開店時から1年間の売上見込額であり、消費税等は含まれておりません。  
2. 各設備資金の調達につきましては、自己資金及び借入金にて行う予定であります。